

長江年表

八

扶

別記

共八

武藏

			二 一 九 三 三	和 書 門
九 冊	二 架	三 函	三 號	類

庫	文	閣	內	
一 四 一 函		二 一 九 三 三		和
五 架	九 冊	三 號		書
				類

內閣文庫	
番號	和 21933
冊數	9 (8)
函號	141 88



備編脩用脩



武江年表卷之八

文政元年戊寅

四月廿二日改元

米穀

米穀去年より豊饒あり市中の老い今限小夜一買て貯蓄する者も余せらる

○二月八日画人谷文一卒

三十二号痴才文晁の男
後世傑出する小葉以

○三月の以市中一磔を傳ふる老嫗也

○三月の以市中一磔を傳ふる老嫗也

○五月廿八日濃谷乃玄坂田の中より生邊の女童方

○六月十日式分判通用始る

○八月三日通寺町

○八月より十月まで回向院にて紀州道成寺親世

○九月二日儒師毎琴乃人卒

○十月六日念佛仍若徳奉上人寂小石川一初院ニ葬

四才の時隣家の小児俄あ病て失りより愛を感し念仏三昧にて七七才の時出家し慈心を修し之
危人を化存し近年の願徳ありて生れ状人の初らあるれが譽

武江年表卷之八

○五月新小判を分判吹努七月通用 ○夏浅草橋場小浪座吹所出する
 ○夏回向院より撰撰湯湯なる釈迦如来開帳 ○五月十日画人清水曲河卒 幸三人名 見祐連
 ○春より深川永代より江の高弁才天開帳 ○神田明神社地小願堂と建立せ
 ○此秋深花より下り一田正七郎といふ老翁少人物を歎き花の歌を傳りしを
 浅草より奥山よりを物と遠をのこる物夥 此等歌の如くわたりわたり細工 坊人こぼりわめたり ○
 為國坊西落小籠細工を大なる酒類童子の歌を傳り見せ物と 此等歌井所筑うこ 師の細より飛登
 の傍よりね松と彫りて涅槃の釈迦を傳りし 此等歌の如くわたりわたり細工 向兩國ありもキヤマンの焼籠茶葉
 船の造り物杯も見せり是よりこぼり大造のこる物夥 ○七月廿六日浮世繪
 師勝川春英死 幸三才号九種歌本本邦中若殿幸三 舞の牛島長命幸三不祥あり古折國の文 ○十二月九日夜 漸成乃井上
 炭は屋敷焼亡 ○十二月廿五日乾烈風未中刻三味線師依竹炭は屋敷より
 出火即時小向へ移り折炭炭市橋炭は屋敷南の影の方焼出又も越

明神社瀧磨堂天文系の辺茅町迄中野町屋も院も焼く院は翌日浅草
 茅町より出火より辺二三町焼く ○月廿六日夜南於炭は屋敷焼失は外
 小火形も小在 ○儒師井上四明卒 名潜孫仲一号佩強固今年九十七才才卒年以 男を孫世といふ文政十年卒す
 文政三年庚辰

正月元日挿花師幸松世一得卒 百三才浅草常務の故位ありは松 三圍のり院内の碑文ありと云り ○正月二十
 四日廿五日飛天満宮参更の神より始 去年上級を満の神より太宰府の例ありて 此のを始む當社のも今年よりトトむ
 ○二月中旬深川沖一縣二喉寄る六る才程の小魚之 ○三月十一日浅草
 玉泉より松葉谷妙法寺祖師開帳 ○三月より深川深川より舟延山
 祖師開帳 ○三月廿二日庚辰年度辰月庚辰日不道る初五時年徳神を急
 る事あり 此日愈正七年より四百廿二年 同ありて支千門一と云り ○春より南谷村熊野十二社控規
 開帳 院内の池小船船の造り物ありこの節日くも焼くられば或人の狂言小 十二より池小船ありと云りて人狂言と云り ○六月朔旦

正治元年表卷之八

二

○真先稿為的村閑帳 ○四月より回向院之羽州湯釜山に控規火日如來閑帳
別當注連寺 ○鎌倉松葉谷祖師法堂

定家菅原洞舟卒 ○五月筋違寺の外牛込袋町代地友以并り
おめ身内より針を少引

史記曰張嗣伯嘗開座中呻吟甚劇嗣伯曰此病甚重乃視之見一老
妣稱體痛而處々有黧黑無數嗣伯還煮斗餘湯送令服之服訖
痛勢愈甚跳投床者無數須臾所黧處皆拔出針長寸許以膏塗
瘡口三日而復云此名釘疽也
醫神錄云處士刺亮言其所知額角患瘡醫為割之得一黑石甚毒
巨斧擊之終不傷故復有足脛生瘡者因至親家為刺犬所齧正
醫其瘡其中為得針百餘枚皆可用疾示愈

○六月長崎より百兒齊亞國の産路院二次を渡り閏八月九日より西の國廣小
後不出一者せ物と云
數名カニエルトロネリスと云とぞ予は時其物を看て和漢ニテ國會
鞍のこゝと云つる説ありて二の肉巻を裏り肉掌ハツクと云つるも云一と云ハツクニテ
小折るる九尺二尺二寸八分大北七寸と云つ後北七寸一重にて了を物とせハツクニテ
えり堤宅山といひ人路院考一卷を著一擇おつ

○五月より夏ふりて大早米價中場以七月七日夜より雨降八日夜大雨降
正月より七月まで廿一度雨降一込一 ○七月朔日より回向院より且立郡性符と本
除除院如來閑帳 ○七月廿六日書家董堂致義卒
○九月十二日塙檢校保巳一卒
○十月廿日書家岸幸晚翠卒

文政五年壬午 正月閏
正月元日雪尺小滿川 ○正月廿八日辰中刻日暈再重為傍小虹行り巳刻小

正江年表卷之八

○四月十七日より二日の名
○四月十七日儒師葛西因是卒 卒二十名實 林健翁

○四月五月旱天五
○四月五月旱天五

○五月十九日より近立出水大川筋大水 熊谷堤切久保村と云処百餘軒院 戸田川の浪一通路を止む 為田橋危く

○六月二日狂言師烏亭
○六月二日狂言師烏亭

○六月十三日曉柿田仲町二丁目より出火
○六月十三日曉柿田仲町二丁目より出火

○八月十七日夜八
○八月十七日夜八

○九月十四日山本清溪卒 名正臣系の人少くて國學和歌は其の 江戸より客旅中不終る案七千六

○十二月二日より知度の方小慧聖現る
○十二月二日より知度の方小慧聖現る

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火
○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

○三月七日曉烈風小傳る町之目々出火通油町る冷町平敷焼○ピヤボン
と号一銀少く倦りくる笛なる小見の玩と云（一）小津野留 ○四月十日大風

○四月の始より藤八五文奇妙と叫て藤の葉を售ふりの術を考（二）藤葉を考

○四月廿六日儒師太田錦城卒（三）六十才名元貞林入助 ○夏より秋に至り月を以て

人を感て以無械仍（四）町中夜番警一 ○五月廿六日浄瑠璃浄法元延寿秋死（五）浄法元

元祖のう（六）浄法元 ○八月九日中川由義卒（七）才元源世是南出と号し書とよく以て辨世為卿といふふと稱せしとされて有世のうれを今とてりぬる

○八月末南斗慧星現る ○十二月十九日夜五時の葦原町標芝居より出火あま

芝居焼元大坂町甚火出つ町住吉町入形町の辺敷焼す ○十二月廿七日

儒師河源遜齋卒（八）四十才名遠業孫能忠弁 ○東近郊圓板仍（九）一枚板 中田惟善撰

文政九年丙戌

莫及く地震 ○二月大雪二夜降 ○日向院よりお洲名板荒人林園焼

○浅草唯念寺より下野高田山如來園焼 ○三月九日儒師龜田鶴高死卒

○秋又地震数度ふる ○今年遊女出菊が百年の忌

○七月九日暮時村田松田町より出

火南風よて赤井田町へ類焼以 ○十月二日狩野素川彰信卒 ○醫師大槻

盤水卒（十）七才入言傳と稱し赤野蘭化の門人ありて蘭學を世弘め又

同十年丁亥 六月閏

正月六日夜九時の葦原町より出火あま葦原町標芝居焼あま芝居標町芳町

人形町通片側大坂町甚火出つ町之焼す ○二月國学共相念惟徳卒（十一）六十

○春より夏へまで江の島上の宮森火災園焼江戸より系譜より（十二）金

○

○

○

○

○

浮標名もも開帳あり○三月九日西宮光昭の主雲室卒七十五路山水を画く年巧あり又病をく

○三月十日より後まも親堂が宗格○牛御前王子権現開帳○深川八幡宮宗格

○肥前國上益頭那美郡石田村産之雲武左衛門としたり大男江左来今年廿二才

大寺寺量二十五年日自平天守是也天守寺としたり大室の志がれ作やの傘借む更北馬

五郎横綱免許○七月本々廿日自東側火除の為町家と取掛せられ

達市の外跡は門の外様田未は於て代地をある○九月神田の神宗礼法

雇索止し附索十六卷新に成るすより一冊を出奥物二踊臺七條物云と出引万

文政十一年戊子

正月八日夜後芝幡院の辺より火火とて又又東近敷焼とて院町を焼亡と

○二月廿五日神田町武丁自湯屋より火火とて東風よて西神田町一園子

新焼とて北風ありて本浪町本町石町駿河町室町の辺より一夜亥の下

新焼○二月廿四日坊上より火火○春川口善光寺如來開帳門外船渡の

依格と○山王所高礼附索今年より廿五冊を成る一とあり

の社地へ石を置とて富士山成後○七月八日神田河院法中宗信卒五十四

○鎌倉八幡宮御再建成○十一月廿日等覺院抱上人逝去六十八歳と云え

卯雨華庵より尾形光琳の画を名釋真号文詮堂

義向ひく一派と認めとあり○儒師菅系東海卒名基孫文孫

同十二年己丑

今年の大小元禄十年小同トありて冬南が火急とての句とみとて便利とあり

くろ○正月十八日大雪○二月十七日大風青柳より出で棠鴨の辺連焼亡せし

○二月廿一日北風烈しく己の刻迄神田佐久野町武丁自河原の枝木小屋より火

出て神田川を飛く東神田武家町並一系小焼とて東の西國橋深濱町辺

武家方より永代橋より西八旗田町通り石例抄り東例より今川橋向

平塚町平河岩河堀堀通投寄屋橋外近南ハ新橋堀留迄を渡り
 一はるの町ハ平河町又傳る町小傳る町馬喰町横山町辺一系傳町昇
 在町あり煙草屋宇在岩邊小細町八丁堀靈叢島鉄炮洲築地武家方西
 門沿り先海を小きり佃島辻木挽町芝居系橋新橋辺町及新橋小及ハ
 聖世二日於然火以武家方新橋敷一南小九二里餘東西二十餘町焼死溺
 死の輩千九百餘人と云り此救の小屋九ヶ所を建てる新橋の官員を救也
此時紀州野山燔死群冥菩提の爲小
吊せあり石碑を建る
 四月六日未刺南風麻布長坂より
 出火版倉斤所麻布谷丁辺赤坂溜池黒田家中郎孫連焼亡夕方雨降る
 ○六月十九日より三日の石田向院を焼死人供養別時念佛修りあり
 ○當二月類焼の町集土を以て龍岡町より元岩井町迄の石之陰の土を伐
十箇不ふかり熱を合て五百幸餘る
ち二天の端六尺鋪九間あり
 ○病者八幡宮永代寺之園地園地 中丈

火中村四月七日連園地
中後再開帳あり
 ○六月六日狂舟堂真類年七七七九
小川本番
 ○七月一朱張通用始る

○八月下旬大川通出水子住住来苗る
小住 月むこうれぬる夜はるの
は けさくらり雪のけしり
 ○菅原考一卷梓行名井光致著

此年同記事

○深川永代寺後院御稻荷内萱場町某所境内未小を積る富士山を
 造る○神田明神社地小富士法王社を勧請一六月朔日奉請始る
 ○赤坂大園侯は藩治中豊川稻荷有馬侯は藩治中水天宮御岳共池田侯
結中 瑜伽山 大権現 園原村 大聖院 不動寺 奉心 森福寺 親世音 奉祈 能
勢 侯 妙見宮 未系 治始る 又 西新井 熱持る 弘法 大師 牛込 町 南 院
聖 天宮 谷中 吉祥院 會天宮 同 奉心 賞寺 鬼子母 林 信人の 遊 堂 系 治 始る
 ○深川澤宮石像の上杉并新敷の若多々像を水とて保之○新井村梅屋

院某師如未小兒出封卜の加持とあり○盆程のねま茶葉茶葉年宵のねまを
救金とて賣買ハ又南天燭の異色を弄ぶ千珠本極本極勇益盆程のねまを造る
るより又南天燭の異色を弄ぶ

○盆程の法帖流行○右布の汗を拭き取り出火寛永の末の盆程のねまを造る
この六件は右布の汗を拭き取り

○川越箭弓稲荷社下總本村振仿明後津川六郎
堀一うらる

○後津川六郎後津川六郎
堀一うらる

○桐澤六郎後津川六郎
堀一うらる

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

○白き盆桃灯切子燈籠くら四回四隣をききかへ自立後ハ
價もききかへられず

或日家を出て後ゆふば常小島へて垢有一夜の怪事と云ふも修二がトシ妻もありてまん
隣のものと代ふられしもの方知れど修二も次子も別れ且婦人物もてあり一惜じべー

○神子の桃灯小豆画の巴を画くは夏蔵高深町のちやうちんやとあり始りて多画の輪窓を去
の万字も次子も出来たり○甲子修福再ひをり出火○目下石古坂中へり出火あり

天保元年 庚寅 三月 二月十六日改元

正月十四日夜下谷啓運火○三月町火消長股大伐鋸始り○閏三月廿二日

狂舟師六樹園飯蓋車十八大石川氏名雅望と号国学小を以て男を塵外樓法徳といふ
ともふね舟とてくは又ふたつとて傳れり

○閏三月晦日雷雨下谷の辺の場所ありき
目方廿二日或は廿九日

○夏の以寺院小へく竊ふ石塔を磨ひま
まらふ

○戒名小末を入るりのり程なく止む○春の以よりや始りて伊勢大神宮

○おろ多糸り流行り一吹雪小旗園小おろり一おろりも糸緒をる若敷一

○阿井の若きり始りて四回一糸小あり又糸又改め初りてより諸國小及せしとて宝永の件小あり

○如く乃中純初の前終初後一ある智の美兼小降りて高僧の雅志とのせ價を文にハハハハハハハハハハ

○答一金沙を拭き取らば中要用の糸とてふも貧乏の若とてども糸官の若ハハハハハハハハハハ

○りてるを若くの教昌言語の乃ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

○文政神異記といふ冊子小洋あり京師の

○板して春本神事といふ人の編あり

○秋より浅草寺二王門修復

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

○秋深川

降心より甲丹身延山祖師開帳○八月十七日麻布一本松氷川町社系
紀四十年日やく産子の町より出たり物未出る○九月廿二日夜雜司春

野乃院失火法明寺祖師堂敷込堂外中の一室に焼亡一
鬼子母神堂并本社の町を焼く事あり○十一月朔日野乃院并徳持

寺後借養撞始なり俗俗群集する事おびきり○十一月廿日画家觀高月

年七十余才名常雅晚年景納と号
英二峰の門人之深川陽岳も小養以○十一月廿二日夜本所葉川町より出火砂村の辺

追焼亡○十一月晦日己中刻橋町三丁目出火若松町横山町網町并餘武

家方未焼○十二月八日夜下谷所切町より出火幡隨意院寺外寺院

町を焼亡○十二月廿二日夜四時小傳る上町より出火小傳る町より自大

傳る町二丁目通旅社町新枝木町塚町草屋町為産芝居寺外焼凡

六町小一丁半程焼る時七ツ時終る○この冬やく小火あり十月
以來九廿八夜不及

天保二年辛卯

三月五日より十九日追龜戸天満宮開帳○暮より後草本養さけて甲及山梨

郡休息村三山寺祖師開帳○築地町石橋南千二百坪餘新親埋立地ある

○四月深川要津より小養大勢森下町に木綿の裁屑中々割裂る本筋紙といふ物を
二丁七丈後養後念も小養内外の書籍小傳り又洞曲月
琴を善く北西廂記源歌月琴考胡言澤語木の編あり

煉始む○七月朔日遠山荷塘卒二丁七丈後養後念も小養内外の書籍小傳り又洞曲月
琴を善く北西廂記源歌月琴考胡言澤語木の編あり

○七月廿四日儒師西服棠園卒名簡称松右門
六十九才○八月七日戲作者十返舎一九終重田
氏名

真下谷と本店を結ぶ小養以ち中東陽院檀越あり○九月十二日より極の内妙法寺祖師
耕世此世をいりやお暇おせん番ともいひていふ所あり

開帳○日蓮上人五百卒年忌供養法苑宗法寺勅祈○香橋所門外外於て親世

太史勅進能身仍あり十月十六日と初日とと晴天十五日の身仍の空あり

而天中外を翌年へく日殺の外日延身仍あり辰の六月ふまき信身仍の目録抄
筆集せり

○十月廿二日日善里修性院の庵中小於て宗師より下り不還堂といふ大字

番の字を書き堅廿六万核十九万仙の紙より式子枚様
墨七石三斗筆名式万朱筆廿筆極あり○十一月廿二日曉上野所本坊火

○十月廿九日夜本不在所出火火久保彦下中死於燒

天保三年壬辰

土月同

正月二日曉五帝を清町より出火此件在町南傳る町白魚屋後より外新焼次

○三月より浅草寺新築より中下依野木村後防町林園地○四月十七日より三日行る

堺所中村勅三身芝居十代目お續の壽辰を具行○五月廿日浅草新町本坊

より豆及出法華寺祖師園地○秋高健泉岳寺山門再建樓上小十六羅漢の像七排列

○八月十七日麻布氷川町林宗礼花中一遊物亦出る中後中絶を○九月廿如來

寺の要依を傍といふ若然火の要具とて水車樋と号し井の水を繰上り器并小

逆柄の柄扱を賣始む○十月新吹武米金通用○冬浅草寺観音寺園地

○九月廿一日下谷新泉町千束福右の宗小終の花出り相り扱を出りたるに

吉東西海峯の堀家より是を足んを屋上へをり遊女禿若若於合十六人保て

落けるが各堂死キタせかむる○十月陰世繪師新川重信卒廿余才

○十一月琉球人來聘正使豊見城王子前王の使澤低取方○十六日江戸刻意の日初雪降雪中

平川秋み雪いと白くくり積りくろ成りて
武蔵の宗とてみりいりいりいりいり雪の初降きある 豊見城王子

まき 奉りたる日

まき 奉りたる日

○閏十一月十九日寅刻糺町出火夜明け焼る○冬風邪流行穢民法救米珍をあり

○續徳家人物志刊行志新東里基之先小宗の池永某の傳り
日本徳家人物志の後編也

同 四年癸巳

二月朔日より寺島蓮花寺より富士山本尊大日如來開帳○不惑池糸又

開帳○其泉岳寺新迹八相曼荼羅再帳外西新井○和法大師増

上其著海舟才天王子福右所林木下川某師如來日白聲明神多摩郡

井の尻舟才天、新為越安、盛吉妙尼、宮家閑帳。○谷正法寺、老佐渡塚、系祖師在帳。
 ○三月九日、より、浅草寺、龍寺、より、系於奉國寺、祖師閑帳。○同廿日、より、永代
 寺、より、下、徳成田山、不動尊、閑帳、在、納寄進、の、不、騷。○三月七日、より、和、瓦、江
 の、為、下、の、宮、舟、才、天、新、為、越、安、盛、吉、妙、尼、宮、家、閑、帳、江、より、請、人、多、り。○四月、朔、日、より、永、代、寺、舟、才、天、
 葛、西、法、江、村、親、正、の、客、人、控、規、閑、帳。○月、二、日、より、回、向、院、より、下、徳、法、苑、
 寺、祐、天、上、人、徳、普、地、苑、の、閑、帳。○四月、廿、日、より、深、川、淨、土、の、寺、舟、才、天、
 浅、草、寺、舟、才、天、太、恭、廣、隆、寺、の、聖、修、方、子、閑、帳。○月、八、日、より、深、川、淨、土、の、寺、舟、才、天、
 回、向、院、舟、才、天、祖、師、七、面、明、林、閑、帳。○四月、十五、日、羅、漢、寺、三、市、堂、修、復、成、今、日、
 昼、時、之、中、舟、才、天、の、親、世、寺、像、を、遷、次。○六月、浅、草、寺、舟、才、天、系、礼、今、年、より、
 昔、の、如、く、林、雲、を、渡、次。○系、刻、家、益、田、勤、意、卒。○世、夏、靈、巖、島、
 東、淺、町、の、先、小、川、辺、靈、社、と、云、ふ、所、の、社、と、も、知、ら、ば、一、時、小、系、清、祥、集、一、け

るが終の乃みく止り。或人の税小川を渡り、水中より上り、細糖を
 まるふく、首で川辺にお返しありたり。○七月、廿、日、の、以

より、陽、島、根、生、院、の、屋、上、樹、木、の、中、小、系、會、より、雀、殺、百、子、と、云、く、群、り、集、る、所、
 人、を、殺、ふ、と、い、ふ、者、な、ら、ば、と、い、ふ、者、或、人、云、是、は、雀、殺、の、所、に、因、回、料、を、舟、才、天、に、送、る、
 所、と、い、ふ、の、所、に、舟、才、天、の、人、に、送、る、の、所、と、い、ふ、者、の、是、れ、を、知、ら、ば、

○八月朔日、大風、由、家、屋、を、損、じ、樹、木、を、折、る、深、川、六、十二、万、堂、半、分、倒、る、也、
 怪、家、人、多、り。○今年、米、價、也、揚、一、負、氏、正、救、の、米、鈔、を、揚、る、事、度、之、
 被、民、院、の、米、鈔、を、
 ○谷、中、長、輝、山、感、應、寺、獲、國、山、天、王、と、改、む、○十一、月、朔、日、夜

八丁、堀、下、町、代、地、福、本、と、い、ふ、酒、樓、より、出、火、近、辺、に、焼、せ、り、
 ○江戸、名、所、圖、會、梓、形、
 此、書、の、寛、政、中、祖、父、長、秋、居士、の、遺、稿、先、考、縣、磨、の、校、訂、あり、
 鄭、外、小、系、會、の、所、に、縣、磨、の、編輯、あり、半、梓、形、あり、の、所、に、又、
 著、者、の、成、り、と、降、を、不、及、い、さ、り、の、所、に、先、考、後、送、稿、を、梓、形、と、席、を、不、委、ね、の、所、に、若、
 冠、の、所、に、烏、馬、の、強、珍、鈔、を、以、今、の、所、に、悔、れ、と、い、ひ、社、撰、の、罪、を、先、考、に、お、か、せ、と、い、ふ、所、に、
 天、保、五、年、甲、午、

正月七日、中村佛庵、卒、
 八十、二、才、名、景、連、林、林、と、い、ふ、所、に、
 林、梁、あり、と、い、ふ、書、を、よ、り、
 ○二月七日、水、風、烈、く、

昼八時神田佐久野町二丁目琴師の家より出火し、即時に神田川を越え東
 神田おまが池の辺に移り、一系小焼廣より東におまが池の邊旧名に火の勢が
 田おまが池より今川橋向本郷町石町本町宝町連東側一系傳る所宇佐
 安油所陸町惣町葺登所お登の芝居佐古所強波町大坂町小畑町辺に
 延る小狭り寺町へ少くも移る所一丁目本橋より先へ通り町筋東側八丁
 堀美濃島の辺新川新堀永代橋際迄延焼、所築地門前より海をまき本
 橋町芝居側おまが池へ焼亡の区域去、丑年三月の火事小大申し、おまが池
 ○同月九日烈風あり、おまが池の橋所より出火、西河原町通り一二丁目
 迄延焼を○同月十日昼九時以大名小路の邊より出火し、法度の藩邸敷
 宇船治橋の敷敷屋敷所南船治町給米町辺南傳る所銀座町尾
 張町三十間堀新橋向本橋町築地辺芝口二丁目延焼二度の焼亡あり、

長九寺里幅平均ありて十町の餘といふ焼死怪我人殺さべし、法救の小座
 十箇所十二株を建られ、おまが池を救をさる○同十三日未中刻約九軒登
 火より出火日本橋敷る并武家町やあが焼せり ○此最向少く風ありて大災なり、あり人々安き
 あり○三月朔日より日甚不動寺園燒○同日より上野清水堂觀
 世為宗燒○弘法大師千年忌法言宗寺院新々供奉の碑をさる
 ○三月、牛島通花寺の外弘法大師安宅の寺院宗燒○四月、法學本
 苑より下總を古村妙光と祖師宗燒○法華寺町正覺より武州新
 座那座那 祖師宗燒○七月廿五日川崎平乃寺弘法大師自坊あり
 宗燒○夏より秋より早く○八月六日古草九代了意卒八十歳
 ○八月三田中道寺実おちと改む○九月、宗二分判通用止○九月廿三日書
 家松宗龍澤卒七十九名持章 祐主信 ○十月十九日晚五刻法華寺東仲丁より出火、六十餘焼亡

天保六年乙未 七月

正月十一日明六の神田熾燭町より出火皆川町永富町松下町二河町等
 丁目二丁目豫倉の岸迄焼焚時あり○一月廿二日子社中刻者赤南町
 より出火廓中焼焚時あり○飯尾花川戸山の痛聖天町赤仲町門前裏の赤田赤町
 等より三百日際りありて元地へ移る
 ○二月八日谷中茶屋町出火ひらば茶屋
 一四焼亡○二月九日神田町赤南町より出火
 聖堂殿より河原迄焼亡○三月十日夜四谷市谷迄焼亡○三月より
 浅草本花より河原迄焼亡○三月十日より不忍池赤
 天保橋○折島妙見宮焼亡○四月朔日より三圍橋為焼亡○四月より浅草
 長谷寺より赤南町親世寺焼亡○四月より目黒正覚寺鬼子母社焼亡
 ○四月廿八日富家園光明寺草分移る赤
 号備南○五月より芝神明宮焼亡
 赤部六波羅密寺本寺親世寺焼亡○浅草より奥山小韓信市人の跡を

潜る所の木偶と云々物々

人形丈二丈二三尺衣裳履物程と排木の鞘を用ふ
 上糸細工の飾りありて西より北にあり物少

○六月廿五日未刻地震○七月より浅草本花より柴又村野徑より帝釈
 天板本寺焼亡○閏七月朔日より回向院より豫倉覚園寺茶師如來巨像并
 日光月光十二神の古佛焼亡○閏七月廿日将谷掖齋六年名望之内外の赤南町
 一人の赤南町を三三三
 ○閏七月十八日曉地震妙音寺地震あり○九月より嵐山小長崎山感應寺焼
 亡法花
 聖年ありて本堂撞接徳門傍房木ありて成林を
 巍然と梵刹ありて
 福ありて産せられたり
 ○十月百文錢通用始る後銭を铸する○野明産人参の形を賣困の病人に
 給る官医石坂氏
 製法○十一月廿九日夜上野山内火○十二月八日夜下谷金松石橋の
 辺より出火金松通り迄焼亡

同 七年丙申

二月九日巳刻地震○二月十六日より芝泉岳より八幡曼荼羅園焼亡○三月朔

日より浅草三社権現軍帳 ○三月七日より奥州折津新巻子と虚室蔵井法
 又より念仏堂より開帳 奥州念仏の産七才の子日、開帳ゆゑ、物販賣に二男外松三男
 此松らふ容貌よく岸より日尾前山先生品生深を編輯せり、ち内へ
 大坂又保山の 又世のゆゑ ○三月十日より谷中妙福寺日親上人開帳 ○三月より永代ちみく
 勢洲園府村南寺本号河孫院如來軍帳 ○三月より丸山與善ちみく松葉
 谷妙法寺祖師軍帳 ○三月より浅草寺権内淡島明神軍帳 ○四月朔日より
 永代ちみく葛西半田稻荷神軍帳 ○四月より浅草寺町蓮光寺と遠次
 貴名山妙日寺祖師軍帳 ○四月四谷伊賀町續新親町登出来と四谷新堀江
 町と号次 ○四月八日より大日坂妙豆院大日如來軍帳 ○六月朔日より浅草西福
 ちみく甲州院佛軍帳 ○六月十五日より回向院より護国親如來軍帳
 ○六月十七日より十四日のる幸不東大寺勸進ちみく二月堂親世と開帳ゆり
 ○六月十九日夜默の毛雨と降る ○七月麻疹流行 ○豊前赤字佐八幡宮神祇小
 深村産ちみく赤字の男兒二人

と程と梅の飛ふ出豆とて西園不知と見せ物と云
 兄の十才程壽と号し升の八才程美と号し ○今年四月より日く雨降又曇天とて五
 月より霖雨止む時ちみく菜蔬生る事ちみく倭賊軍帳諸人少く看せ物何と
 ちみくちみく物ちみく為國皆納涼とて寂莫ちみく七月十八日二百十日小島り
 且ち大風為家屋を傷損以大河通出水あり是より米價一時小急揚ちみく
 のちみく八月朔日先小倍とて大嵐とより烈とて屋宇を破り樹木を折り怪
 我人何とちみくを其の溢る是小とて米穀減とて諸人困苦甚し七月より
 貧民は救とて米粉をあり又十月小いり飢饉極つ外より和泉橋連のちみく
 所寄通る小い救の小いと營てられ小居しめ食物をちみく 此等水油拂底少あり
 小量の油や小商を保ち
 ○九月十九日築地洲堂天鏡成今日供養持あり 富家の娘
 撞死し 貴族群集影
 ○十月廿二日昼浅草寺輪花焼亡 堂内より火起り焼かすこの時暫時のちみく
 以辺斗り雨降る親世の利益あると云り ○十一月十二日
 夜四時時神田鴉町小横町より出火 新焼
 二丁 ○十二月廿九日夜根津門前茶屋町



焼亡○江戸買物獨案内三冊持仍

天保八年丁酉

飢饉きん小のき、去年より賤民一石救を下しある事、きん文、舎蟹

子九卒久保氏○（）赤川清ら香より身延山祖師開帳○八月まつり薩摩燻精しん信しん始む

為蟻あまぎと号以○（）度とら禱とら祈とらる○八月十日初より大風雨入家七損とらト樹木七折怪我

人多一夕とら宿小いゝりて寝る○九月神田明神附糸の内橋本町よりとら籠細工

の身物しんぶつと出以（）音とら竈とら坂とらの趣向とらよりとら意とら主とらと様とらの美とらの人形とら之類とらよりとら只とら衣とら裳とら若とら祖とら三とら木とら小とらいとらと

○十月廿分とら獲とら新とら規とら吹とら立とらる○十月十九日晚六時吉原江戸町二丁目より出火

一系焼亡（）飯とら尾とら山の翁とら花とら川とら戸とら赤とら川とら八とら幡とら布とらあり（）○五志とら別とら新とら規とら吹とら立とらる（）十一月朔日より

○十二月九日夕八時之地震○日光山志五卷とら持とら仍（）○関八州路程全圖とら持とら仍（）

後 願井善照著

同 九年戊戌 四月間

正月十五日秋入行岡寛光卒（）林周彌とら又とら権とら太郎とら号とら都とら子とら周とら 領城とら盛蓮とら之とら小とら墓とら 〇二月廿二日明六半の根津門

香茶屋町より大宮永町七軒町外近辺に院焼亡○三月廿より半島白粉

明神開帳○月十日より新寺町五郎より中とら徳とら香とら取とら妙とら真とらる（）祖とら師とら開とら帳とら

○十七日より回向院とら之とら井とらのとら改とら弁とら又とら天とら正とら帳とら 院とら内とら之とら人とら形とら師とら泉とら目とら吉とらのとら細とら工とら之とらをとら之とら

○月十日市谷茶屋稲荷神とら正とら帳とら 神とら納とらのとら違とらりとら稲とら荷とら之とらをとら之とらにとら依とらりとらる（）〇二月信綱とら在とら浦とら新とら規とら

○四月十七日大風午の刻に小田原町武丁自湯登より出火一始とら小とら風とらかとらりとら一とらが

南風ふりり伊世町船戸物町本町石町本根町辺より今川橋通り西とら鎌とら倉とらの

岸小川町武家方西神田町一系焼亡空町の辺に夜成刻に焼亡門取とら一とらが

○閏四月四日夜廻町出火○五月廿一日より永代よりゆく武州多摩郡長瀬郷玉

川町神正帳○同廿五日より回向院より紀州加田淡島町神正帳（）神とら正とら帳とらのとら形とら七とら

酒入味あじ妙たぎうりり一板市中いちばんちゆう不濁ふたつ酒を製あ之あ集あ家あ多あ一

○八月廿九日大風也地震ぢん○十月日本橋ほんばし去年二月大坂おさかより車くるま何某なにがし一件

○十月九日十日湯島天満宮地てんまんぐう主しゅ戸こ隠かく明あきら社やしろ祭まつり出でり物

○十月十六日大風朝あさ淡たん茶ちや所しよ既い河か岸あし渡わた一いっ艘そう

覆くわりて人多おほく死し○十一月八日夜水谷町みづやちゆうより出火佃島てんじま延焼えんせう七しち翌あつ日にち已い刻こく終しゆう

○同九日夜市谷左内坂出火しちやひだりうちま○東都歳事記五卷梓しす仍なほ 月岑著 長谷川雲且并雪埋画

○江戸方角註解しん一いっ卷梓しす行ゆき 三遷著

天保十年己亥

正月十一日雪二尺五寸程積つ○三月朔日しつげつにちより飛戸天満宮あそひ因よ燒や

○三月二日西南大風土砂どを飛とは夕ゆふ七しち時とき小石川こいしがわ若わか花はな谷やより出火駒込こまが馬うま士し前まへより

武家方組中ぶけがたがたぐみちゆう江町えまちをともとも以も火ひ焼や之し○三月三日より青山あおやま善光ぜんくわうより

一先之寺いっせん孫まご院いん如にょ來らい園えん燒や○月十一日より千駄谷せんだがや仙せん壽じゆう院いん鬼おに子こ母はは井い園えん燒や

○六月十七日より回向院くわうぎやういんより川傍かわべ平へい間ま寺てら弘こう法ぽう丈ぢゆう師し因よ燒や 東あま小箱細立十二万の室 報七福林のものを物出

○お洲おすづ江えの島しま舟ふね天てん保ぽう燒や 江戸より 善務法 ○四月しがつ為な因よ燒や御ご清せい成じやう於お飛と井い町ちゆうの

住人形師すまいたがたし末すえ吉きち石いし舟ふね 九十 舟ハ誰の人形師にて置物 根舟の細二名あり

○六月十七日より麻布あさふ廣ひろ尾お天てん現げん寺てら毘ひ沙さ門もん天てん園えん燒や○神田かんだ明あきら社やしろ一いっのいちを

居い建けん改かい 金二万 金一萬 ○六月末上野かみぎのう中なかつ堂どうの後のち三さん抱だくををりの大だい木もく風ふうももあありの折をり

○十二月朔日大風益えき時とき已い江え谷や恭こう宗そう寺てらより出火青山あおやまより延焼えんせう年とし及およぶ

○十二月廿六日言田ことだ吉きち定ぢやう院いんより出火言田ことだ辺へ町ちゆう新あらた燒や穴あな八幡宮やちひんぐうの樓門ろうもん燒や失し

○同廿七日夜吳服橋ごふくばし内うち秋あき元もと彦ひこ正ただ藩はん邸ていより失火

同 十一年庚子

二月廿八日より王子おうじ橋はし若わか形かた不ふ開ひら燒や○三月朔日しつげつにちより元阪田もとさかた町ちゆう世よ繼ついで橋はし若わか形かた不ふ開ひら燒や

閏徳○三月三日より小石川牛天神閏徳○同六日より浅草寺町正覺寺より
 下総大野法蓮寺祖師宮徳○月十二日より浅草寺泉寺より佐渡堀糸根本
 寺祖師宮徳○四月より根津権現山内約辺稻荷町外宮徳○谷中妙福
 寺祖師宮徳○四月朔日より芝野明宮内より天由宮中筆の像
 同徳この時境内一系より入り一土生狂言と見せ物と見○同日より南善村慈野十二社
 権現寺地親世寺宮徳○五月より麻布善福寺閏山像閏徳○八月十五日
 芝田町八幡宮糸礼産子町より出く徳物未出く其後止む○八月徳物料理
 榎掛月樓折や
 仁宗善徳成就と○九月七日夜五時元救寺後町火出火尾張町近於焼せり
 高美とすと
 ○九月十日朝大風雨○十月十三日浅草寺本堂修復成就と今夜閣下刻
 本堂念佛堂本堂善徳中本堂より
 本堂不安堂一なるより遷座あり遷座の旨の熱心を用い
 諸中の外入る事とあり終て留時宗
 帳あり道俗群集此時本堂本堂我宛と云孫孫寄取ら草の推茂鬼女の歌草家交祥が
 草の閏朔新給不草草の縁縁の歌不ありと云草の草の草の

ふる所再度揚りあり
 ○十二月十四日画人谷文晁卒号写山樓又畫宗無雜藝一々
 文阿弥と云淺草深草と云草草

○十二月十八日神田明神社修復成就と付く亥刻遷宮あり
 ○羽州新庄郡二方村百餘林助と孫老以并として十に才ふおれりりのお七年およりお眼自在不出這
 を眼の玉大きす膝のあり一と出く眼一と申す後五更文を撰つひひと申すおと宮
 地廣場ふよおと
 ○繪本東都本化乃坊紀持乃不深堂蓮翁著一卷
 江戸法花と院像起外本あり

天保十二年辛丑 正月閏

正月六日夜四谷斎草翁町より失火四谷竹町外廻町不於焼翌日曉
 追焼家○正月廿七日夜板津門希茶屋所焼亡○二月より傳通院内福聚
 院火災天宮徳○三月廿八日より浅草寺親世寺宮徳奥山と云蘆馬と見せ物と見又
 兼川園九と云若けおと曲
鞠を蹴る名物日毎小山を走り又浅川區五年
 と云るりの作り一具細二の月を物も有り○同日より田向院お徳谷寺神院如來
 若蓮生像宮徳○月晦日より青山善光寺より杉木先明寺親世寺宮徳六月十五日より
 ○護国寺親世寺宮徳○四月より舞場町茶師め来宮徳○田向院よ越

後高田若守も大師（系）也 ○浅草新町五泉寺より □洲市新村祖師（系）也

○五月十八日屋代輪池（系）卒 名弘賢孫大倉藤書園學子 ○五月より坊間の法（系）中

古小復（系）十六日青々令（系）せり 此の傳多し ○五月廿九日俳人大梅居（系）卒

七十才如小山人ありて物外又克徒持を若くして後道彦門はて俳諧嗜り所藝家の富高小島居

爾より助少の一家表て後元大町小所一房我と号して茶子を傳ふ孤山剣居小の号如勝も中修

若院小華の源川長共るる小碑あり門人卓即建之 ○六月より浅草念佛堂より公呂根（系）荒

人非閑性 境内小大坂細工人折文三の住 ○九月非田の非系礼のめ今年より附系十六系

と改之三巻系と改之を々なり三系より出 願書池走り願書池の 所（系）雇系あり也

浅草田系町清水系を初む弘化に系 ○あぬの曲ハ万葉打系きぬて山がく 横系

始り 対子奉新元町源系これをつとむ 系の上風車立向ふハ水の上きせる風車

帆帳あり又橋の曲ハ三重ハじあや松すくハ打板二重の曲あつたり 系のは先二重の系

かんせれたるの叶 扇唐子遊ハ遊子のり系後り大いふ上初年の番組ハ是かこかかかりあり

○九月大國橋為廣小路ハ紀州系山の生れより齒力鬼（系）大橋つといふりのつを物

小切（系）る機器の釜焼を喘（系）刻り或ハ種（系）の就（系）以ていふと人々（系）傳（系）重（系）れ物とてとて

自立小振ハ又浅草寺の奥山ハ狗馬（系）とてつけく曲るせ系り後小馬人とも小宙（系）小沟上

るつ各物もやうり ○十月七日曉七半時博町より出火為産芝居堀ハ六町町元大

坂町新和泉町新系物町中ハ外新焼 ○十一月晦日夜上野大佛堂より出火佛

像焼損ト堂（系）宇（系）焼亡ハ同十四年再建あり 意海為室上人建立古地蔵の一軀

○十二月菱垣止（系）仲（系）万（系）十組商人ハ條冥加金上納免（系）り（系）諸商人同（系）仲（系）万（系）停

止あり ○十二月十七日大雲二尺程積る浅草寺年の市備人抄

天保十二年壬寅

○新曆頒行 天保壬寅 ○正月廿七日大風四方深川山系所尾花系 酒

於焼あり ○二月廿五日より湯島大佛宮閑性 ○去年十月博町草孫町の芝居

焼失後為座并探人形産浅草山の宿小出産下屋鋪の地引移（系）る（系）青の

る命（系）のり（系）が當二月三日同ふより勢地（系）ヤ（系）ーあり 四月廿八日より町名を藤若町と

引之(き)よりて二町分形地敷許を万七千八坪餘とす此の屋中二者の二屋敷の物とありの五るに
十方(さ)一丈修の山あり遊々此の舊地と稱するものあり他を置て小畑を建て小出家の山中一尺の露地
物とせしむる是より後舟倉敷後若他町の住居を移せられ三町の肉と住居せめらる又途中編みとむる
せららちのこれもむすむる山のありさるるすまわとよし子とす

○三月朔日より水代よりて井奈川觀禱備前○月三日より日

不毛成田山不動菩薩開帳○三月七日西大風量時正牛込通より出火より小

石川小日向約辺東野町が系近武家町延壽院多く焼亡焼死怪象人騒おひげ

○三月十日酉刻本願回向院芳元町尾上町焼亡

○三月十八日 官府より命せられて江戸端々料理茶屋共除け取掛酌免ちやくけん

女ハ吉原町へ入る八月迄は實引掛以若妻一家引後より喝家と
あれどもあり不謂女々不の除の拍子ハ △深川仲町仲町と稱せ
山本町あり △新地つげ

△吉石場越中
高町 新石場日本橋
高町 福徳山本町
横通 橋下山本町
横通 徳打場山本町
横通 阿比又徳
山本

名佃町へあひるといふる首房及睡蘇那の歌歌
この不(後)枕院の女といふる名目之賣女如く

吉岡町吉岡町鐘撞堂鐘光
門前 △浅草堂前高倉院
門前 △三田三角高倉院
門前 △麻布市立清町

△市谷おぐ谷谷所 △根津つち△谷中いろは茶や茶屋
おぐ 音羽町

△敷ヶ橋△赤坂妻め田町之遊女の者よりよひよひの者り
りよまをまけりあわんり

○三月廿二日小大風量時正物箱箱つあより出火小川新宿小川南新焼亡

○中野宝仙寺不動菩薩開帳○四月朔日より高橋太子堂申堂福新社開帳

○六月より回向院より南都法隆寺聖徳太子開帳聖徳太子開帳
南都法隆寺

○六月十五日山王済業乳済産約也産約也
産約也 始り附業女々所

○六月大橋より所小舟町牛頭天出山旅出の多高年々

○七月十九日戯作者柳亭高谷種彦種彦
高谷 卒

○八月懐若所操芝居初魯仍結城
座 ○八月満池上白山社取拂 ○九月懐若所

町中村劫之即日二丁目市村羽名清つが芝居初魯仍

○八月懐若所操芝居初魯仍

町中村劫之即日二丁目市村羽名清つが芝居初魯仍

橋内より出火五郎を湯町より多所白魚や、江小井登町弓町の辺一系尾張町より本松町西門前の隈武家より近飯座町本松町江岸を介致し焼亡廿八日於東風より勢り致す登町本松町加賀町山王町丸登町出雲町の辺に焼又七つ時を結ぶ ○古金銀紙幣判紙米銀を米銀未通用を傳ふる

此年同記事

天保七八年の以より日本橋四日市箱箱明神共結あつたりとて新橋とこむる若狭橋を橋より群集し又文政の以より四谷新橋の山正院小安とす所の奪衣婆(口中の病を新うと云信の若きなり)が氷の今よりり新盛よりり流籠を新り日米百慶系の米銀(○雜司が合法明る塔頭毎年十月念式の飾物止む) ○神社佛閣の富具仍文政中殊小盛なりとて救十を新り及ひより天保の米より止む ○因相村は梅園を搦(救百株を栽す)和ふをを定(毎

美遊記多し この一の号成 ○獨搖(獨)天竺牡丹ヲキサといふ事を知る 獨搖茶の形似を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の

○煎茶の會仍ある ○浮世繪師國芳が草の 此を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の 相画一立舟廣重の山水錦繪あり ○現在の文人墨客流藝人又流售物も浅

角力小なり組甲乙を記せし物を知る ○六字南を右出づ左門よりころ米が流を を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の せぬる女を更りて場を搦(る)庭よりを新りて恥るを新りて婦女子のふきあはれ義

を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の 方美路の淨瑠璃をよりける悪史悪婦をこころを以てこれを新りて着て藝の功拙 を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の といふ以て容貌の美悪を論(ら)るがごとくこれを新りて此世のつら(う)きより

○横橋の深物を知る ○近世文藝の士殊小多く名流達士も隨て恥る(ら)とす を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の 一されど現存の輩の傳りてらふ徳さげ ○人情本と唱へる男女の私情流奔

のさぬをのころを紙枚多刊りけるが天保以来特他あり ○近頃月琴を彈を を以て枝を以て即時不葉を寓れ合致の さぶりの事 ○皇朝嘗て柔ふのいしよりかきこぼれ極るに近年殊小萎みし

養ふもは東よたそにあり毎年正月二月はそ我飼ふとあり初下の香を
兼店小舎くく音声の美悪を論一風流の名を設くを以て其日と号は
るの衣冠好ありそ天下才と称ド三笠山と号するの是又再りとて隅田舎
某まを流一巻を著し畜育の法を解常の編委くく号する

○寒暖計と号し四時を暖と量るの器なりりそ兼人持信りの品ありそ
本邦にて製し始するよし○保川仲町一香居の傍に生一軍出を毀て町を以

弘化元年甲辰 十二月十日改元

二月より牛の所前王子権現開帳せいりやう止む ○後考より町本考より上総必藤
系妙光の祖師開帳 ○中延八幡宮開帳 ○龜戸又備宮開帳 ○妻小夏みどり
あ園橋西廣小路小太ある伝を撰一釣也一牛作る治下谷の位 あり小夏妻の曲とせん
マイくくうとて交へて見せりものと以て見物山の如し これ小夏ひく後考より位は奥山信とあり
釣也一牛作の題向小うくひ釣みまひとて

乃多建ふらうとて中て流する奥山とてをりのと一けらうとてわねだ
そ後人形師牛田徳盛のみはそりみり人形のをせ物をしり

石川下宿坂町よりお火にて釣也土物店近れ焼 幅三丁長十三町
程あり ○肥前平戸産大男

生月縣をたつといひるね撲取来る 別の六七又五寸言サ千云愛堂
一尺寸今年十八寸十八寸力といふ ○五月五日あ園橋

西廣小路芝居小倉崩とて即死二人怪象人救あり あ後徳の齋
一ねといふ ○七月九日あ園橋

小田原町二丁目より火火伊勢町御所町御所町乾焼夜九時終る ○七月廿四日

曉八時田新町湯をより出火くく元火坂町長谷川町保赤橋町元濱町油町多妙
町富澤町に岩近れ焼朝去時以終る ○七月廿八日保師田喜菴護物卒 主寺号赤雲居
後考慈念より

○越後の若男女の侏儒ふ踊りををくくせ向あ園小旅く看せ物といひ ○十月より果鴨
深井葉の造り物再び始る 文化よりこのころ花燈のくく造物に始りし今年果鴨ある美盛院
の會式の飾り物として先祖の神のさる崇古近治の辨るに葉花之造

あより飾り植木や毎小葉の造り物をくくして法人おるせる翌巳年よりあ園橋植木谷中より造り本
造りあ園橋やもくくして造りくく分九寸十時終るより平城の足物日毎小群集一較年く造りし
わ水の今よりくく ○十月十七日より王子橋前町神開帳 ○赤師の画工岸釣が男岸良江

戸不來り儀芝野寺堂(揚香の額を掲ぐ)○今年長壽の人水口寿山百五才 末右石舟百才 花井白叟九十才 大岡雲峰八十才 前小松為一八十五才

弘化二年乙巳

正月廿四日小大風砂石を飛以登八時過青山往る永續三杉所武家地より出火一々所焼ひろく或飛火して麻布三杉家一帯ねる居坂辺六本木龍土市吉忠所横田町永坂辺廣尾白金魚籃親より大信より辺二本榎伊豆子猿町吉藤野田町小焼亡して海より来る夜入狸尻三回の新細町の辺焼亡成り刻銘を武家寺社救と知り所救百廿六番町焼死怪家人或は海辺の者若後の火ふ宅れ海中不入溺れ死とるりのを合せて幾百人といふ事を知り赤羽橋の側より救の小舟を建て救焼の負いん民を育せしむ。い夜何れの家よりのがれ出らん其能く正人辺の中を往い走りて某處の藩内へ逃入るを其臣信某文字二人おて仕置り又火事の時白金臺所下月禅宗西照寺の裏つ小橋より助のん越師の孝曹明山と諱字より出る扁額火中より焼く昭和九年外坂の火より不危く焼くこり一々今年門焼落る額の焼く者人より焼く者長福も麻布氷川社を福も子堂庚申堂

稲荷社泉岳より如來電 ちあり残りり ○二月雲巖高より築立化成る後町を建て富徳所と号し

和町江川町楊柳町小傳る町佐町油町田原町極道町新林本町より長谷川町吉砂町辺ありは十九町の敷焼あり夕七ツ時ごろふりこり焼火は

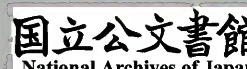
○當年閑帳ハ二月九日より牛所前王子控現去る跡 同日牛島蓮花寺弘法大師二月廿五日より井の沢赤火天同廿八日より同是不動寺三月三日川口善光寺如來あつちのり 今年奉堂の下を壊て戒壇おとせ ねむり所流し坂後橋をうける 同五日より儀芝野寺奉堂業師如來月九日より吉妻森若妻権現門十五日より坊上る芝蔭側赤火天同廿日より川口錫杖寺天満宮地蔵若

四月朔日より芝林明宮内赤火天同日より深川所傍赤火天同日より品川海晏寺赤火天較次親世寺鉢院如來四月より出村本坊も鬼子母神五月廿五日より葛西柴又村赤火天七月朔日より愛宕山内赤火天山の下岡山堂 右何れも自坊

小松屋焼けり ○七月より後芝草町正覚寺より中山鬼子母社宮焼けり
 廣尾又現古毘沙門天目蓮尊像と金毘羅権現圍焼 ○八月十首より小石川
 白山権現移り八幡宮宮焼 ○三月十五日わがわがの橋上の宮弁天圍焼
 糸清寺 ○五月後芝草寺五重塔修葺 ○九月牛島新蔵木屋を焼あり
 葉の造り物出あり ○九月後芝草町より聖天宮表門の通一葉道小路を
 ○十一月廿八日俳人自焚堂風朗卒 後念寺住持常盤堂對井
 といふ谷中又まゝの事 ○十二月五日暮六時吉原
 系町武丁目より出火廊中焼亡 後宅の福川山の家屋を町丸町後芝草山川町同移り越山
 谷津川八幡より同寺村町佃町同を焚町八幡宮旅門を焚
 陸奥中ノ丸町の移り入江町長島町
 八并を焼登登 弁天又あり ね井下あり
 後成り引移り 後宅の二百五十日限りくく元池移り此時あつたふまゝなる居りをて者妻長家園を焚
 永積長家三長女やといふね妻長を焚と稱を長家と改む

弘化三年丙午 五月間

今年正月元旦より二日迄の若牛房小毒焼けりといふ俗説ありて諸人食ふ可
 ○正月十五日北風烈しく砂石を飛び夕時迄小石川片町の小武家地より出火
 て丸山移り本坊を菊坂の辺より本町新寺より元町辺へ本町通湯島町迄
 夷木町辺神田明神門前 神田社様の境内社無湯島
 又湯島聖堂の事 後芝草町仲町の辺より湯島地火
 駿河基(飛)て小川町焼込東西林田町一系焼亡 今川橋向の本町石町堂町火
 付馬町小田系町小舟町堀江町小畑町茅場町八丁堀濱町永代橋際連雲巖
 島築地鉄炮洲佃島 本町より
 中島 南ヶヶ畑小いゝる所の江堀場通り神田より一石橋迄日
 本橋の向へ通一丁目より本町迄系橋子第一系新焼とけり小色れ町へ連連と
 けれとも移り形を一羽二十六日の置九時迄後町の井河居まで燃り長九一里十餘
 町大小名は藩邸敷せり後町投武百九十餘町焼死怪赤人粉ふいと取れり湯
 島田橋より三層の多宝塔 山の上へ建
 多塔あり 又妻意橋荷社 近江再建して煙
 あり社あり も此時焼けり



○野燒の貧民の救の小座三石一連の儀民も未焼せあり
寫者の高き
（毛の焼せ度
未更あり）
○正月十六日燔魔
○三月より深川八幡宮開帳○月洲橋弁才天本社修儀成禮とて

開帳○三月十五日より儀事八軒寺町大園寺とて川越在々戸妙昌寺祖師開帳
○三月より米代地七波り弁才天開帳
昔海（さ）かゝる高きたゞ以城の辺より南社
諸のまじりの橋と渡りなる衣の石有りといふ

○四月三日より陽島社月之増五郡野島津宮地蔵寺開帳○四月廿二日御師
小養庵唯嶺卒○五月晦日関原大聖院不動堂火
御堂傍
房焼失
○五月十七日和奇英

國学者鎌倉植園卒
五十八才御子法師始家本大隅後宗姓朝田小政称
梅進難装と云後田といふ教を授る中林は多院お尋
○六月より面向院
若池百樹七十八の時の著書
母永壽は其世上の風俗を記

○夏の半より為勢とて晴々事稀之六月下旬大雨降降き洪水溢せ出
下総相生利根川通り堤の辺九尺餘りと圍一が廿八日子上刺葛飾郡権現堂村
より六里上幸川役村堤切と洪水漲り出子位辺家屋を浸し小柄糸の石枕花

考肩より上のとて舟とて舟籠の辺一時水溢是床の上三尺をり小及び住居を
らび外逃還くとて溺死の儀も有り
あかんま
さうん
ど
○六月十五日山王宮系禮社改所修儀あり同日廿九日小延るは洪水未
減せし七月より洪水百餘七日八日より再お増とて大川水勢とて大川橋

新大橋永代橋損とて住来止り為國橋の通好あり幸新辺ありとて水新
増より付く幸和の士民被中俄より戸とてとて連なる人たは足履難しとて
まより新橋不命せしれり日助新救護せしれりこれと救あり
以世まる喰所
の橋有り

○當年在々も災ありとて且當年小生る男を召切り世のありとてこれ
字於宮佐野本座宿態と谷深谷仍田木と外大火あり○喜多静盧丙午弁
一巻と著輯し

写本
世の人兩年の年と災厄ありとて且當年小生る男を召切り世のありとてこれ
是の年とて餘詳異本の例旧史を徴してとて

弘化四年丁未

武江年表卷之二

正月十日夜亥刻下谷通新町より出火千住三昧の寺院跡らに焼亡す○正月廿八日曉丑中刻桶町より出火三所程於院○二月三日より西新井弘法大師園地○二月廿一日より関系不動寺園地○二月十八日より清原寺親世寺園地○二月より

浅草燈明寺一向二寺の弥陀如来園地○湯島社地を野島地花寺園地去の移、日まき

○五月より清原寺町大徳寺を武及馬場村飯沼神園地○三月廿五日

小山田与清平國學院より移るる田原の事又古井左衛門後小山田与清と改号知水舟の事

○河東侯芝居妻の狂言中巻柳春虎春の他を伴いし世に於て諸人酒席の戯れにこれをまねて

○妻清原寺の奥山へを物よりとれこれに全の人心を造る此の事一丈餘燈明寺の事一丈餘寺より

○三月廿四日信州大地震人多く死に江戸も坊夜少一の地震あり

今年三月八日より川中島長老の如きあり其の園地ありて諸寺より集りて禱麻とて一掃す不
淺草山の相違より減る成怪し居るに三月廿四日晝夜快晴と有りしが夜に以て依り大地震
ひ出立此の事一丈餘を震し一丈餘を震し即死するもの数千人といふを知らず善光寺近辺の跡に未だの
遺骸あり合してこの禍不遠ふのたとも不救く一を在るの例れ家より大徳寺へ火と成る善光寺の本堂
へ傾る後跡より一掃す及婦と云ふぬ山の山中にのりて利益を蒙り一合成金とせりとの報あり

又雷鳴の如き雷なりて高より中一夜の雨より近午餘夜四月月より雨りて雨止る中一丈地烈けく院
妙勝寺より入る雷雷入丹波島より二里川上虚空山山丁程罷りて厚川一落入洪水溢る丹波川水押出し
右岸の地は焼死の人多く我といふを知らず或は記す三万人といふ九の積りて地とて一水内郡の地
を一掃す一と云ふ他山出れぬ地を流し一掃す一掃すの由片瀬より東へ一掃す一掃すの由片瀬より東へ
後此の事地震の如きなり用おの泥水とありて遠くを掃す程あり一掃す一掃すの由片瀬より東へ
の窮人を言し食物を給するに年々厄なりて一掃す一掃すの由片瀬より東へ一掃す一掃すの由片瀬より東へ
建ふ一夜とてりて一掃す一掃すの由片瀬より東へ一掃す一掃すの由片瀬より東へ一掃す一掃すの由片瀬より東へ
らりて一掃す一掃すの由片瀬より東へ一掃す一掃すの由片瀬より東へ一掃す一掃すの由片瀬より東へ

○五月十六日曉八時半時横山同明町より出火橋町る嶮町横山町辺於燒亡す

時終る○六月八日信州町小舟町天主神樂所出火の事去年迄去の事休し今年

より後一掃す一掃す○史籍年表刊行伴信玄著○同日町茶屋菊造物出火

○十月吉原秋葉燈観念の時花火を物より出火○吉曲類纂六巻梓弓月巻老

此年回記事

根岸新田といふ不又梅屋家とて中廣く松と紅白枝と交り顯る社觀あり

唐之田右衛門といふ名も當の事なり柳井地と物事の田と号し善の名なり其東殿山學堂其院主某物
事の里の如き一を祀りて以て碑を建てる碑は高時信州抄れり善の名を掲げあり

○華毛といふ條毛石垣を築りといふ陸軍部と申す。 ○谷中瑞林寺塔頭久成院妙法善神社の修築の考あり。 ○高橋石神門不安泰と境内(福)○七年以来雲降る(稀)○修築といふに或れ修るをんみりて二の古畫と純一餘人これ小孝を加へて画するの哉ありて大人の果へべきりのふりては

嘉永元年戊申 二月十六日改元

今年の大小章の字を以て暗記(運筆)の順より終て小に横を以て(立)草 ○二月六日より晴天十五日のる筋遠橋河の外加賀系に於て室生太史觀進能身行り五月十三日小修り鳥仍の日毎小遠をの半輪(輪)之錐を立るのあり。 ○二月廿九日芝原寺八社堂茶室開帳 ○其六阿鉢院如來寺新開帳 ○二月三日青山善光寺にて大坂寛子修院如來開帳 此所善光寺本堂 善法成修せり ○三月廿三日夜赤坂表修り町三丁目火教寺町焼亡 ○四月廿九日遊山上人化益 日物寺修修り 狂言より修修り ○二月廿九日喜多靜盧卒 八十才名信信言 狂言者也号松園 ○五月護國寺山内杉の松小修り築てふ ○六月初旬より旱 愛保天徳中教実院主修り 内外の書籍小修り一人あり

○六月廿五日八十日回向院にて儀修教如來開帳 今年の儀修開帳例よりいし一境内衆人頗奉出候り松とて毛くのをせりのあり

○七月八日浅草寺修り申明者松村福昌と祖師同不蓮光寺より上総安津妙光寺祖師開帳 此所 ○八月浮世繪師英泉卒 此所 ○八月廿二日北島玄惠法印百周年忌

市谷仲の町金春氏之能兼狂言身行あり 此所

○八月廿九日漸連寺師壽阿弥曇齋卒 今才号如是縁庵空華戲号劇神仙云云 小石川傳通院中昌林院小修り ○十月浅草東

仲町大路小坂接井と修り ○十一月六日曲亭馬琴卒 今才名解号養父玄同若他堂あり松尾あり此隨法也云云 難修りて修修り

○十二月九日夜更刻小泉川歩修宿より出火寺子自述焼る ○同是日人坂大園と

明和九年の災後廢りて今も再興の企有りて中堂と建修如來毘沙門天と安ん

○川口善光寺本堂修修成修 ○神代文字考一卷修成 雀峯戊申 編輯

果実風も昔不順ひ百穀豊饒ゆて都鄙の良賤陶之獲る事云々を成珠小快楽成

果実風も昔不順ひ百穀豊饒ゆて都鄙の良賤陶之獲る事云々を成珠小快楽成

果実風も昔不順ひ百穀豊饒ゆて都鄙の良賤陶之獲る事云々を成珠小快楽成

果実風も昔不順ひ百穀豊饒ゆて都鄙の良賤陶之獲る事云々を成珠小快楽成

